

2. 地震の場合

—焦らず、まず安全確保を—

【地震が発生】

- ・机の下や、落下物のない場所に身を隠し、カバンや衣服で頭を守る。
- ・ガラス窓には近づかない。
- ・脱出口確保のためドアや窓を開ける。
- ・エレベーターの中の場合、全ての階のボタンを押す。
- ・ゆれが収まってから、火を消す。

【ゆれが収まったら】

(大学内の場合)

- ・避難指示が出るまで、安全姿勢のまま教室で待機する。
- ・避難指示に従い、落ち着いて避難場所に避難する。
- ・階段は慎重に降りること（エレベーターは絶対に使用しない）
- ・避難完了後は、災害対策本部の指示を待つ。

(屋外での対応)

- ・頭をカバンなどで守り、建物から離れる。
- ・飛散するガラス等から身を守る。
- ・揺れが収まったら、避難場所まで避難する。

【災害が収まったら】

—むやみに移動を開始しない—

- ・ 交通機関（JR や路線バス）の運行、停電の有無、周辺の災害情報を確認する。
- ・ 誤情報や嘘に惑わされず、公的機関からの正確な情報を得る。

※明るいうちに徒歩で帰宅することができない場合は、大学構内で待機してください。

【外出先より帰宅する場合】

—大きな道を徒歩で帰宅—

外出先で被災し、帰宅指示後、帰宅する場合には以下のことに気をつけてください。

- ・ 明るいうちに、徒歩で自宅に到着できる場合のみ帰宅。
- ・ 同一方面の場合は集団で帰宅。

→お互いに助け合える状態にしておく。

- ・ 幹線道路沿いに帰宅する。

→幹線道路は道も広く歩きやすい。

→帰宅支援ステーションを利用する。

（コンビニエンスストアやガソリンスタンド）